

子どもの習い事の実態と母親たちの意識 —子育て生活基本調査より—

○間瀬 尚美・藤村 憲子・川上 道子（ベネッセ教育研究所）
山岡 テイ（情報教育研究所）

Ⅰ. 目的

幼児の習い事実施の早期化や多数の習い事をするこ
とで遊び時間が少なくなっていることなどがしばしば
話題になっているが、その実態や背景にある母親たち
の意識とはどのようなものなのだろうか。

こうした習い事の現状を明らかにすることで、今後
の子育て支援のあり方を考える一指標としたい。

Ⅱ. 方法と対象

調査の対象は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県に
住む3歳～8歳児をもつ母親で、調査方法は任意郵送
法。調査期間は1997年9月～10月、集計数は4,613
通。母親の平均年齢は約35歳。父親の平均年齢は約
38歳。父母ともに30代半ばが中心年齢層。母親の就
業状況は、専業主婦60%、パートタイマー27.3%、常
勤者12.7%。家族構成は核家族が75.6%、三世代同居が
21.6%、同居人数は4人が最も多く45.1%であった。

Ⅲ. 調査の結果

1. 習い事をしている割合

現在、園や学校以外に習い事、スポーツクラブ、通
信教育、教材などを行っているかをたずねたところ、「し
ている」割合は全体では64.9%。男女差はほとんどな
いが、学年があがるにつれて「している」割合は増え、
年少児では36.2%であったが、小2生では84.8%とな
っていた。また、一人あたり平均1.9個の習い事をして
いることになり、男女ともこの数値で差はなかった。
一方、学年が上がると「している」数も増え、年少児
が約1.5個に対し、小2生は約2.3個であった。

2. 習い事の種類

では実際にどのような習い事をしているのだろうか。
表1は、全体および男女・学年別に行っている習い事
の上位5位を示したもののだが、「スイミングスクール」が
男女ともに、またどの学年でも第1位であった。

また、男女別では、男子は「スイミングスクール」「ス
ポーツクラブ・体操教室」「スポーツチーム」といった
運動系が多く、女子は「楽器」「バレエ・リトミック」
といった音楽系の習い事を行っている子どもが多くな
っていた。

3. 習い事を始める理由

図1は主な習い事4つについて、始めた理由を8分
類し、図式化したものであるが、習い事の内容によっ
て開始動機の特徴が表れていた。例えば、「スイミング
スクール」では「体力づくり」が突出して第1位の理
由にあげられており、「楽器」では「情操・音感育成」
が最も高くなっていた。

また、理由を8分類したうちの一つ「人づきあい」
は、「子どもの友だちづくりのため」「友だちと一緒な
ので」「自分（親）の友だちと出会うため」「親子で楽
しみたいから」という選択肢が含まれており、いわば
親の立場から子どもや親自身の人間関係に配慮した理
由をまとめたものである。ポイントは高くないものの、
図1であげた4つの習い事のいずれにも共通した理由
としてあげられていた。

一方、「子どもの希望」は4つの習い事のいずれにお
いても、約30～40ポイントを占めていた。この「子
どもの希望」には「友だちがやっているからやりたい」
場合も含まれていると予測できる。

このように親と子どもの双方において「人づきあい」
「友だちづくり」は、習い事を始める際に、上位では
ないが必ず登場する理由となっていた。

Ⅳ. 考察

習い事を始める理由には親子双方の「人づきあい」
「友だちとの出会い」への配慮もうかがえたが、こ
うした実態の背景にはどのような母親の意識があるの
だろうか。

本調査の他の設問では、「子育てを中心にした現在
の気がかり」を43項目の選択肢の中から複数回答で選
んでもらった。その結果を多い順にあげると、①「ほ
め方・しかり方」②「友だちとのかわり」③「し
つけのしかた」④「量や栄養バランスを考えた食事
の与え方」⑤「母親自身の人間関係」となった。ま
た「一番の気がかり」について具体的に自由記述で回
答してもらった内容から、母親自身の人間関係への不
安が子どもの友だち関係への配慮に発展していること
もうかがえた。

このほかにも、子どもの習い事と関わる自由記述の
中から、親の子育てにおける悩みや期待をかきま

ことができた。例えば「一番の気がかり」についての自由記述には、「幼児期から勉強ばかりで将来すばらしい人生が送れるのだろうか。しかし、やらなければ取り残される」といった習い事をめぐるジレンマをあらわす声もみられた。

ほかに「自分が育った故郷のように、近くに子どもを安心して遊ばせる場所がない」「近くには子どもと同年齢の子や気の合う親子がいない」などといった記述に代表されるように、一種の「親子での友だちとの交流の場」として、習い事や教室が期待されている状況がうかがえた。

また、他の設問で「子育てを楽しんでいるとき」

についてたずねたが、年長児・小1生・小2生では、第5位に「子どものスポーツの試合や音楽の発表会を見ているとき」という項目があがっていた。習い事を始めて一定期間が経ったあとのスポーツの試合や音楽の発表会時は、家庭の中だけでは感じにくい子どもの成長や集団生活への適応ぶりが確かめられる貴重な場ともなっていた。

昨今の「習い事」事情の背後にある母親の子育て意識として、人間関係や子どもの将来への不安や、子どもの習い事とおして、子ども同士、親同士、また親子のコミュニケーションをはかろうとしている期待などが、今回の結果から浮かび上がってきた。

●表1 現在している習い事 ※数値は%

順位	全体	男子	女子	年少児	年中児	年長児	小1生	小2生
1	スイミングスクール 37.7	スイミングスクール 43.0	スイミングスクール 32.4	スイミングスクール 34.5	スイミングスクール 35.5	スイミングスクール 37.1	スイミングスクール 40.0	スイミングスクール 40.8
2	楽器の個人レッスン 20.9	月1回教材が届く通信教育 21.0	楽器の個人レッスン 30.3	月1回教材が届く通信教育 27.4	ｽｽﾞｰｸﾗﾌﾞ・体操教室 19.8	楽器の個人レッスン 22.8	楽器の個人レッスン 25.2	楽器の個人レッスン 29.8
3	月1回教材が届く通信教育 20.5	ｽｽﾞｰｸﾗﾌﾞ・体操教室 18.9	月1回教材が届く通信教育 20.1	ｽｽﾞｰｸﾗﾌﾞ・体操教室 14.7	月1回教材が届く通信教育 14.7	ｽｽﾞｰｸﾗﾌﾞ・体操教室 21.9	月1回教材が届く通信教育 23.7	月1回教材が届く通信教育 21.8
4	ｽｽﾞｰｸﾗﾌﾞ・体操教室 15.0	楽器の個人レッスン 11.6	幼児向けの音楽教室 11.8	ﾊﾞﾚｰ・ﾘｯﾐｯｸ 8.9	楽器の個人レッスン 13.9	月1回教材が届く通信教育 17.5	習字 13.7	習字 15.9
5	英会話などの語学教室や個人レッスン 10.3	地域のｽｽﾞｰｸﾗﾌﾞ 11.5	ﾊﾞﾚｰ・ﾘｯﾐｯｸ 11.5	教材を一度に購入する通信教育・教材 7.7	幼児向けの音楽教室 12.2	幼児向けの音楽教室 英会話などの語学教室や個人レッスン 9.9	計算・書きとりプリント教材教室 12.9	計算・書きとりプリント教材教室 14.9

●図1 習い事を始めた理由の特徴パターン

右の図は、各習い事を始めた理由を8つの視点から分類し、それぞれの習い事の特徴を図式化したものである。作成は、以下のように行った。

- ◇調査票では具体的な理由を27個の選択肢として用意
- ◇具体的な理由の27項目を、その内容から8つに分類
- ◇各分類ごとにその分類に属する具体的な理由のパーセントをポイントとして加算し、図式化
- ◇各習い事の平均開始年齢も名称の横に()で示した

※数値はポイント

